

## 教育課程部会におけるこれまでの審議経過（案）について

土井 真一

「教育課程部会におけるこれまでの審議経過（案）」（以下「審議経過（案）」という。）について、以下のとおり、意見を述べさせていただきます。

### 1．学力の確実な定着について

審議経過（案）に記されている趣旨に賛成であり、このような方向で、さらに議論を進めていくことができればと考えます。

### 2．個別最適化された学びについて

審議経過（案）に記されているとおり、児童生徒一人一人の興味・関心や能力、適性、性格等を把握した上で、それぞれの良さや可能性を生かし、多様な子供たちを誰一人残すことのないよう、個別最適化された学びの実現のために工夫していくべきであると考えます。

その際、協働的・探究的な学びとの両立が必要になりますが、そのための工夫として以下のようなことが考えられるのではないかと考えます。

第1に、協働的な学びには、協働の在り方及び方法を学び、それを実際に体験するという即自的な意義があり、それ自体重要であると思います。しかし、同時に、協働的な学びには、それを通じて、各自の思考力、判断力、表現力などを高めていくという、手段的な側面もあります。とりわけ、後者の側面を充実させるためには、協働的な学びの後に、各自がそれをどのように受け止め、そこから何を導き、自分なりに考えを深めていくかという、各自の反省的な学びの過程が必要になります。この段階を充実させることに、協働的な学びを個別最適化された学びと結び付けていくポイントがあるように思えます。さらにいえば、学習の時間的な制約があるかもしれませんが、各自が深めたことを再度持ち寄って協働的な学びができれば、よりよい循環が生じるのではないかと思います。いずれにせよ、協働的な学びを協働的な活動あるいは作業にとどめることなく、児童・生徒の皆さん一人一人の学びと有意義に結び付ける工夫をしていただく必要があると思います。

第2に、協働的な学びの在り方として、学校段階や学年が上がるにつれて、すべての児童・生徒の皆さんが同じことを調べ、同じことを考え、互いに発表するだけでなく、各自の興味や得意分野を生かして、役割分担をしながら、一つのテーマを探究していくという形の学

習を意識的に採用していく工夫があってよいのではないかと思います。多様な人々の間の協働関係は、異なる資質・能力を生かすことで、自分にしかできないことを与えつつ、自分にはできないことを受け取ることで、より大きな成果を実現していく過程であることを学ぶ必要がありますし、そのような関係を築いていくために必要な方法や姿勢を身に付けていくことが求められると思います。そして、それを通じて協働的な学びと個別最適化された学びを結び付けていく可能性を考えてみてよいのではないかと思います。

第3に、個別最適化された学びのためのICTの活用については、インターネット上に存在する様々な情報を、ICTを通じて収集・利用する学びだけでは、とりわけ高校における、より高度な探究的な学びにとって、限界があるように思います。もちろん、ICTを用いたデータ処理・分析など、より高度な情報処理能力を高めていくことも考えられるでしょうが、ICTを利用して、より高度な探究のための協働的な学びの場を作っていくことを考えてもよいと思います。特に、特異な才能を有する生徒の皆さんの指導等を考える場合には、クラスや学校を所与の縛りにする必要はありません。ICTは、そのような縛りを解いて、多様な学びの場を生み出すことができる手段ですから、主として議論や意見交換に限られるという限界はあるかもしれませんが、各人の能力や関心に合わせた協働的な学びの場を作っていくことを積極的に考えることができればと思います。

## 5. STEAM教育等の教科横断的な学習の推進について

審議経過(案)に記されている基本的な考え方、及びSTEAMのAの範囲を「芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で定義する」ことに賛成です。

ただ、審議経過(案)でも指摘されているように、教科横断的な学習や探究的な学習については、とかく非常に高度な学習であるとイメージされ、学習に困難を抱える生徒の皆さんが在籍する学校においては実施することが難しいと捉えられがちです。しかし、教科横断的な学習や探究的な学習は、これまで人類が解けなかった問題を考え、画期的なイノベーションを実現する人材を育成するためだけのものではないと思います。自らが現に有している知識を基準にして、その範囲で問題を捉えて処理するのではなく、問題から考えて、必要なことをさらに学び、たとえ小さなことであっても、新しい工夫ができる人材を育成することも重要な教育の役割であり、そのような次元での教科横断的な学習や探究的な学習は十分に成立すると考えます。したがって、生徒の皆さんの能力や関心に合わせて、様々な形でのSTEAM教育が、各教科の学びと結び付けながら実現していくことが大切であると思いま

す。

## 6 . ICT の活用について

新型コロナの感染拡大への対応のみならず、将来的に、個別最適化された学びを実現したり、授業時数の在り方を弾力的に運用したりするための手段として、ICT を最大限に活用していくためには、審議経過（案）に記されているように、学校だけではなく、「学校や教師の自宅、家庭との接続を設計に入れて、…端末整備、ネットワークの拡充、セキュリティ対策」等が重要になると思います。ただ、この点については、広く各家庭の理解を得ていく必要があり、また家庭の通信環境の改善のためには、教育委員会や各学校の努力だけでなく、必要な予算を恒常的に確保することや関連業界の協力などが必要となるためですので、それに向けて是非ご尽力をお願いしたいと思います。